

編 集 後 記

NHKの大河ドラマ「おんな城主 直虎」を観ていると、400年以上経った今も同じようなことが繰り返されていることに気づく。

常に生き延びることだけが優先で、勝ち馬に乗ることを考え、ときには調略され、帰順し、身の安泰を図ったのが戦国時代だ。ある意味、当時の大名たちの節操のなさがよくわかるが、よく言えば、領地の民を守るため（守らなければ自分の生計が成り立たないため）の行動とも言える。「天下分け目の戦い」と言われた関ヶ原の戦いなどは、勝ち馬に乗るがための様子見、水面下での調略、寝返りなどが勝敗を左右し、わずか一日足らずで終わっている。戦国大名たちの情報戦により、血を流さずに救われた多くの兵（民）がいたことは間違いないだろう。

今年の秋に総選挙が行われた。突然の解散で右往左往する一部の議員の言動に、戦国大名の姿と重なって見える場面が何度もあったように思う。戦国大名の場合は領地を守るため、あるいは敵地を切り取るための戦いだったが、議員の場合は本人の保身が第一で、勝つためには、なりふり構わず“勝ち馬を選ぶ”という姿勢が見受けられた。国民の多くは、そんな議員たちの建前と本音の乖離に気づいているはずだ。

短大生は全員が有権者だが、彼女らにとって「政治参加」はどの程度身近なテーマになっているだろうか。政策論争以外のプライベートな話題で連日マスメディアに大きく報道されている議員の存在などは、決して有権者の投票行動にプラスには働いていないはずだ。私たちの立場からできる（すべき）ことは、“無関心”を“関心”に変えるきっかけを日々の活動を通して与え続けることだ。10年後、20年後の国や社会の“未来予想図”を描くのは若い世代が中心でなくてはならないことを、さまざまな事例に置き換えて伝える責任が私たち大人にはある。

「星稜論苑」第46号の発刊に当たり、執筆された4名の先生方の、日常取り組まれている教育研究活動と成果に心から敬意を表し、感謝を申し上げますとともに、今後もさらに教育研究に精励されることを願いたい。

平成 29 年 12 月

山 本 航

星 稜 論 苑 第46号

平成29年12月25日印刷
平成29年12月26日発行

発 行 金沢星稜大学学会短期大学部会
〒920-8620 金沢市御所町丑10番地 1
TEL (076)253-3984
FAX (076)253-3998

印 刷 所 ソノダ印刷株式会社
〒921-8161 金沢市有松 4 丁目3-26
TEL (076)247-5157

金沢星稜大学学会短期大学部会

部 会 長 山 本 航
編集委員 横 野 成 美